

台風第12号の接近に伴う農作物等の管理対策

平成30年 7月26日
新潟県農林水産部

平成30年 7月26日 9時に気象庁が発表した台風第12号の5日進路予報によると、台風第12号は28日から29日にかけて本県に最も接近する見込みです。

接近に伴い、29日はフェーンにより高温となる可能性があるため、今後の台風情報に十分注意し、農畜産物の適切な管理に努めてください。

また、台風により荒天となった場合は、安全確保のためほ場や水路等の見回りは行わないでください。

1 水 稲

【事前対策】

白穂や着色粒等の障害の発生を防止するため、用水の供給状況を確認し、フェーンになる前に速やかに湛水する。

【事後対策】

- (1) 台風通過後は自然落水を待ち、飽水管理に移行する。
- (2) 病害虫の発生に注意し、発生を確認した場合は早期に防除する。

2 大 豆

【事前対策】

開花期から子実肥大期にかけて水分要求量が多くなるため、土壤水分が不足しないよう暗きよが閉栓されていることを確認する。

【事後対策】

- (1) 土壤水分が不足した場合は、莢数の減少防止や子実肥大を促進するため、畦間かん水を行う。かん水は、ほ場全体に水が回ったら直ちに排水する。なお、フェーン前であっても土壤水分が不足している場合には実施する。
- (2) 病害虫の発生に注意し、発生を確認した場合は早期に防除する。

3 園芸関係全般

【事前対策】

- (1) 収穫期を迎えた園芸作物（ねぎ、なす、えだまめ等野菜、ユリ切り花、果樹等）は、台風の通過前に可能な限り収穫する。
- (2) 樹園地や施設の防風網、支柱・支線及び誘引結束、ほ場のマルチ等を事前に点検・補強する。
- (3) ほ場やポット・トレイの乾燥を防ぐため、朝夕の涼しい時間帯にかん水を行う。特に砂丘地では、飛砂防止も兼ねて風が強くなる前からスプリンクラー等で十分にかん水を行う。
- (4) 施設においては、強風時は原則としてハウスを閉め切り、換気扇を稼働させ被覆資材のばたつきを防ぐ。また、高温時には、遮光資材の内張や葉面散水・通路かん水の実施により葉焼けの発生を防止するとともに、風下側を開けて換気する。
- (5) 花き球根類の種球貯蔵にあたっては通風等に留意し、貯蔵庫内温度の低下に努める。

【事後対策】

- (1) 脱水症状が見られる作物は、速やかにかん水する。
- (2) 倒伏した作物で回復が見込まれるものは速やかに立て起こし、土寄せを行う。また、強風で傷んだ茎葉は病気の感染源となるため、必要に応じて除去し、収穫前日数に十分留意して薬剤散布を実施する。
- (3) 高温時に収穫した切り花は、花しみ障害等の発生を防止するため、速やかに涼しい場所で水揚げを行い、蒸散の抑制と品温の低下を図る。
- (4) 葉ズレ、枝ズレ等で障害が発生した場合は、収穫物の選果・選別に留意する。
- (5) 被害が著しく、回復困難であると判断される場合は、他作物への作付転換を検討する。

4 畜産

【事前対策】

- (1) 被災時には自家発電機による搾乳や生乳冷却等が速やかにできるよう、予め停電や断水等の対応を確認する。
- (2) 暴風対策
 - ア 畜舎の破損を防ぐため窓や扉等を補強する。特にハウス畜舎等簡易な施設は、補強を確実にを行う。
 - イ 放牧中の牛は安全な施設、場所に避難させる。
- (3) フェーン対策
 - ア 熱射病等の家畜疾病を防ぐため、密飼いを避け、送風機、細霧システム等の暑熱対策を徹底し、家畜の体感温度の低下に努める。
 - イ 給餌による急激な体温の上昇を防ぐため、多回数給与や朝・晩の涼しい時期に給与し、新鮮な水を常に十分飲水できるようにする。

【事後対策】

- (1) 熱射病等により家畜に急激な体調の変化が見られる場合は、速やかに獣医師の診療を受ける。
- (2) 家畜の死亡被害があった時は、速やかに化製場に搬入する等の確な処理を行う。

5 きのこと

【事前対策】

- (1) 一般対策

あらかじめ、施設や栽培状況を把握し、想定される被害に対して、早急に対応できるよう準備、点検を行う。
- (2) フェーン対策

散水・空調等での温度管理と品質低下前の早期収穫に努め、収穫後は保冷库等で保管する。
- (3) 防風対策
 - ア 施設（ハウス、雨よけ等）の戸締まり・点検を十分に行い、損壊等が生じないよう保護・補強に努める。
 - イ 屋外に保管してある資材類（おが粉等）が飛散しないよう、被覆等の適切な管理を行い、移動が可能な資材については屋内に移動させる。

【事後対策】

- (1) 施設に被害があった場合は、速やかに復旧し、きのこの生育環境を確保する。
- (2) 停電があった場合は、復旧後速やかに関連機器の作業点検を行う。

6 漁業全般**【事前対策】**

- (1) 出港前に確実に気象情報等を確認し、荒天が予想される時は出港を中止する。
- (2) 早めの情報入手を心掛け、以後の航海計画・出港予定を見直す。
- (3) 波や風の急変に注意するとともに、発達した積乱雲等に近づかないようにし、早めの帰港を心掛ける。
- (4) 漁具や飼育池等の管理に十分注意し、厳重に警戒する。

【事後対策】

- (1) 係留している漁船、漁具や飼育池等を確認する際は、安全を十分確保してから実施する。
- (2) 河川から流出した流木などが港内や海上を漂流している場合があるため、出入港、操業時は、周囲の安全を十分確認し、漂流物に接触しないよう注意しながら航行する。